



ÖJAB



共に作り上げる未来

笑顔をもう一度

目次

謝辞

1. 序文
2. エヤップと難民援助
3. オーストリアへの道
4. ウムフとは何か
5. 教育：学習と試験的な実習
6. スポーツ：サッカー、陸上競技、テコンドー
7. クリスマス
8. 夏休み
9. 遠足やハイキング、コンサート
10. エヤップハウス・グライフェンシュタイン
11. グライフェンシュタインの夏祭り

2018年5月発行

編集 Lisa Fischinger
翻訳 Lisa Fischinger
イラスト Raffael Miribung
校正者 吉野泰斗
レイアウト Lisa Fischinger
写真 38-40頁 Hui

その他 ÖJABアーカイブ
発行所 ÖJAB, Mittelgasse 16, 1062 Vienna, Austria
Tel. +43 1 597 97 35-0
Web www.oejab.at
オーストリア協会番号 741400795

Printed in Vienna



YUAI - ÖJAB

架け橋

1965 - 2015



WE WOULD LIKE TO EXPRESS OUR GRATITUDE
AND DELIGHT FOR THE CONTINUING AND SUCCESSFUL
COOPERATION WITH YUAI SINCE 1965.
THIS PHOTOBOOK IS A PRESENT WHICH SHOWS THE
PROJECTS WHICH CAME TO FRUITION DUE THE YUAI'S
SUPPORT AND GENEROSITY.
WE HOPE TO CONTINUE OUR LONG LASTING FRIEND-
SHIP AND DEEPEN OUR BONDS WITH YUAI FOR THE
FUTURE AND AIM TOGETHER AT PRESERVING PRE-
SENT AND FUTURE RESOURCES FOR THE GENERATIONS TO COME.

Wilhelm Perkowitsch

Wilhelm Perkowitsch
President
ÖJAB

Dr. Monika Schüssler

Dr. Monika Schüssler
Managing Director
ÖJAB



Josef Wimmer

Josef Wimmer
Deputy Managing Director
ÖJAB



Dr. Petra Heidler

Dr. Petra Heidler, MBA
Deputy Managing Director
ÖJAB

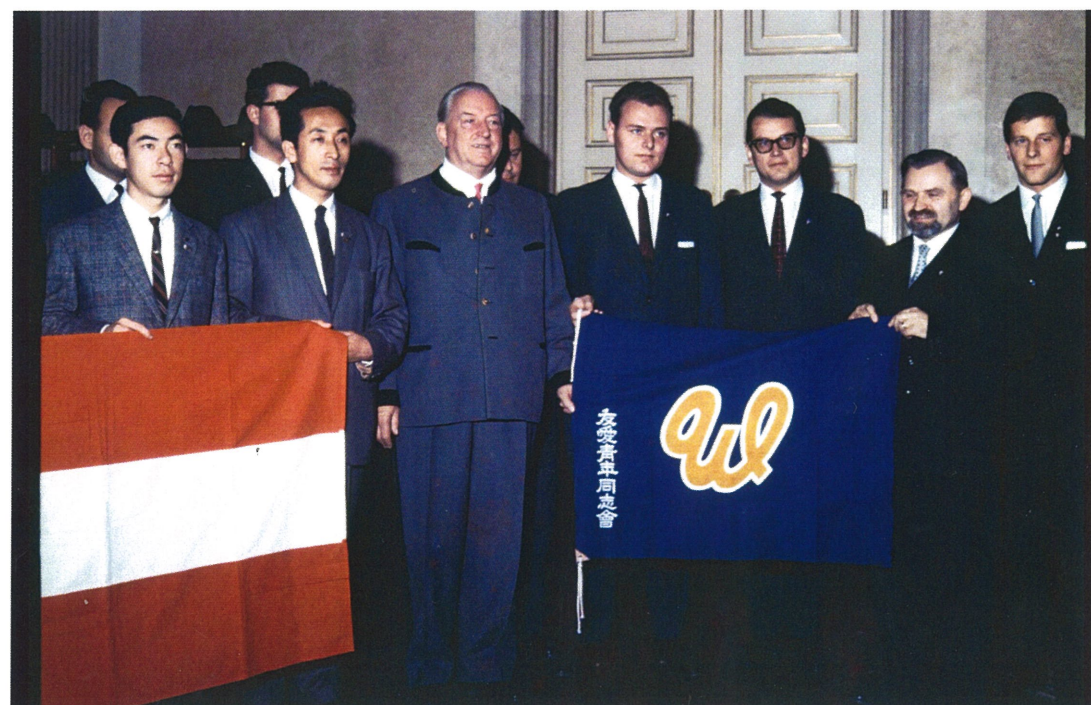
Wien, July 2018

序文

1945年4月12日にウィーンが爆撃され、その際にウィーンの特徴のシュテファン大聖堂が破壊された時、ウィーンの住民は絶望の縁に立たされました。数年間の戦争のために何百万もの人々の命が失われましたが、復興の意志は深い悲しみに打ち勝ったのです。



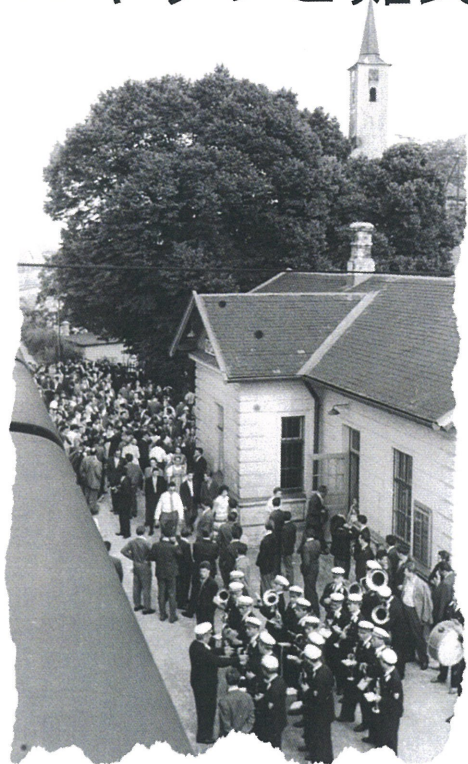
1946年に大学を卒業した直後にブーフヴィーザー・ブルーノ博士がウィーンのシュテファン大聖堂の復興のプロジェクトの責任者に指名されました。爆撃されたウィーンにオーストリアのさまざまな地域から、職業教育を受け、仕事を探すために来た若い多数の建築作業員を彼は雇いました。共同で立てられた目標のために互いに援助し合う青年の共同体が作られました。ー それが「オーストリア勤労青年連盟（ÖJAB：エヤップ）」の始まりでした。平和的で世界包括的な共同と共生を目指すクーデンホーフ・カレルギーの思想をブーフヴィーザー博士は追求しました。彼の国際的な仕事はヨーロッパ内部にとどまりません。1961年には西アフリカのブルキナファソでも、成人した青年に有望な未来を与えるべく、エヤップは現地のために開発共働のプロジェクトを始めたのでした。



1963年、日本友愛協会とエヤップの間で「ホーホライテナー議定書」の流れの中で初めて対話のきっかけが見出され、こうして始まった関係は1965年に重大な協同へともたらされました。鳩山一家の功績により、両団体は共通の理念で結ばれ、両団体が世界的にも広げていくことになる友情が、両団体間で結ばれることになったのでした。



エヤップと難民援助



エヤップは早くから国際的な危機が生じた際には難民を援助してきました。1965年に初めてハンガリーからの難民を迎え入れ、それから1968年にはチェコスロヴァキアから、1980年代にはポーランドや他の東ヨーロッパの国々、ペルシア、アフガニスタンから、そして1999年にもかつてのユーゴスラヴィアから難民を迎え入れました。

苦境にあり、助けを求める人々…

我々はいつも彼らに寄り添ってきた



オーストリア東部の州ニーダーエースタライヒのエヤップハウス・グライフェンシュタインには長年、約20の国々から来た、保護を求める人々が住んでいます。彼らはそこで、お互いに助け合える、家族のように親しい仲間のいる家を見つけ、周辺に住んでいる人々とも一緒に色々な活動をしています。2006年には彼らによって、エヤップハウス・グライフェンシュタインの周辺に「多文化(インターカルチャー)自然庭園グライフェンシュタイン」という有機栽培の菜園と果樹園が作られました。



そんな中、2015年12月、エヤップはオーストリアの内務省から急を要する依頼を受けます。それは、保護者のいない難民をエヤップの施設に迎え入れ、世話をし、学校の授業を受けられるようにしてほしいという依頼でした。2016年3月7日からエヤップはオーストリアの内務省と協力し、オーストリアにおける難民援助プロジェクトを発足させます。そのプロジェクトはほどなくして重要なベストプラクティスのプロジェクトになりました。そのプロジェクトによってアフガニスタンやソマリア、ギニアから来た14歳から16歳までの25人の保護者のいない難民が、エヤップハウス・メードリングの青少年用の寮で新しい住まいを得ることができました。彼らは授業を受け、教育面でも保護されています。そしてまた、運動とスポーツ、クリエイティブな物作り、家庭菜園・ガーデニングを通して、そしてまた寮の他の住人たちや近隣の人々との日常において、彼らの新しい環境への統合（インテグレーション）が進められているのです。

Petra Heidler
ペトラ・ハイドラー



Monika Schüssler
モニカ・シュッスラー



Wilhelm Perkowitsch
ヴィルヘルム・ペルコヴィッチ



Josef Wimmer
ヨーゼフ・ヴィンマー

日本友愛協会の大変お心ある寄付金により、保護者のいない難民の人々が、エヤップのプロジェクトを通して、もう一度笑顔を取り戻し、安心して安全な生活を手に入れることができました。このフォトブックによって私たちは、日本友愛協会の寄付金のおかげで取り戻すことができた笑顔を、日本友愛協会のみなさんにご覧いただきたく思います。

そのお心寄せと大がかりな援助に深い恩義と心からの感謝を申し上げます。日本友愛協会にはこの上なくご助力いただきました。

本当にありがとうございました



オーストリアへの道

難民の大部分はハンガリーやチェコ、スロヴァキア経由でオーストリアに辿り着きました。ハンガリーにはいわゆる「西バルカンルート」が通っており、このルートではイスタンブールから、ブルガリアとルーマニア経由で、あるいはギリシアとマケドニア、セルビア経由でオーストリアの国境に難民が来たのです。

バルカンルート

■ 現在のルート

■ 代替ルート

■ 国境の柵

ロシア連邦の諸州から来る難民は主に「東国境ルート」を通過してやって来ます。このルートで例えばチェチェン人はベラルーシやウクライナ、ポーランド、チェコ経由かスロヴァキア経由でオーストリアへ避難して来るのです。近年「東国境ルート」が急速にその意義を失ってきたのに対し、「西バルカンルート」は、国境が封鎖されているにもかかわらず、アフغانستانやシリア、パキスタン、イラン、イラクから来る難民にも東アフリカから来る少数グループの難民に使われています。「西バルカンルート」を使う難民は、パキスタンやアフغانستانに始まり、イランを通過してトルコの国境にまで及んでいる「東地中海ルート」でトルコにやって来るのです。

オーストリア

ハンガリー

ルーマニア

スロヴェニア

クロアチア

ボスニア・ヘルツェゴビナ

セルビア

モンテネグロ

ソヴォ

ブルガリア

マケドニア

アルバニア

ギリシア

トルコ

ウムフとは何か

保護者のいない難民

※ウムフ(UmF)は「保護者のいない難民(Unbegleitete minderjährige Flüchtlinge)」の略称です。



エヤップハウス・メードリングの青少年用の寮ではアフガニスタンやソマリア、ギニアから来た14歳から16歳までの25人の、保護者のいない難民が、24時間体制で難民のために尽力している、有資格者から成るエヤップのチームに保護されています。この難民たちは戦争と迫害から逃がれてきた、親や保護者がいない身寄りのない未成年者なのです。



それだけではなく義務教育を修了できるようにウムフはそこで、専門知識をもつ教育者に授業を受けています。更に彼らはその学校を卒業した後、エヤップの職業教育的な

学院に入ることができます。そこでは例えば実習教育の一環として板金工やガラス工、金属工、電気工学者、商人の仕事を学ぶことができます。あるいは提携する学校で職業教育を始める可能性もあります。





エヤップは、この若い難民たちとエヤップハウス・メードリングの多文化な寮の住人たちとの相互作用を援助しています。とりわけ中心を占めるのは以下のことです。

- 共同生活を通じた統合（インテグレーション）：運動とスポーツ、健康にいい食事や他の住人と一緒に料理すること、創造的な物造りや絵を描くこと、家庭菜園・ガーデニング、レジャーや文化の体験
- 地域や文化の研究による多文化理解のトレーニング、統合のトレーニング、およびオーストリアの価値観や慣習、またオーストリアにある文化財を知るトレーニング
- とともに協力し合い、ドイツ語の授業で語学の知識を身につけさせること
- 講習でともに協力し合い、情報技術の知識を身につけさせること
- 学生と職業教育機関の実習生とウムフの共同生活の援助



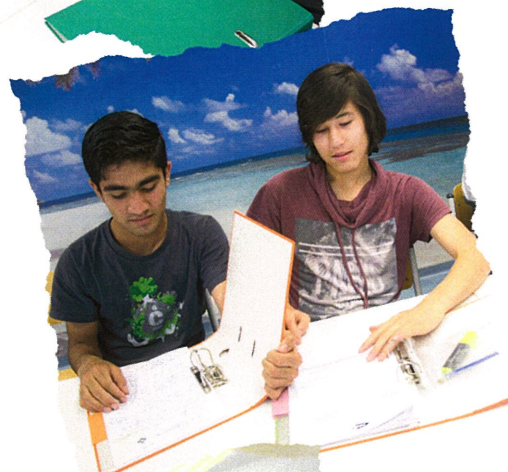
- オーストリアの学生にボランティア活動に従事する可能性を創出すること
- オーストリアの学生に、コントロールされた環境下での相互的な統合のプロセスを共に体験し、自ら参加し、何気ない共同生活の基礎を作る場に立ち合う貴重な機会を提供すること
- オーストリアの学生が避難民や移民、またそれらの人々の生活の再建とそれに伴う諸困難というテーマと根本的に取り組むことを促すこと



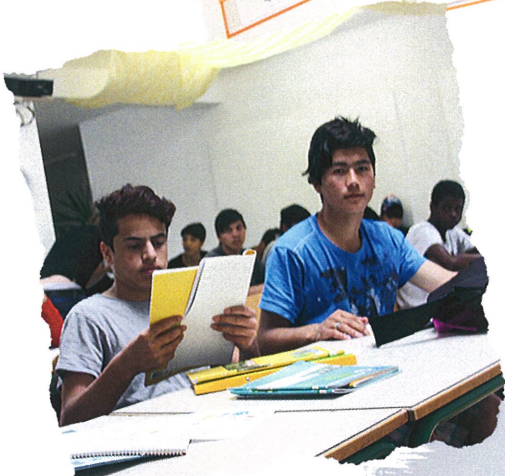
お互いに相手を認められる雰囲気の中で、この世界のいろいろな国から来た青少年が平等にチャンスを得ることができるようにする社会貢献がなされるべきなのです。エヤップは保護者のいない難民にこのプロジェクトを通して、住居と安全な環境だけではなくさらなる自己発展、ドイツ語の習得、学校の卒業、そして統合のためのあらゆる機会を提供しています。



教育： 学習と試験的な実習



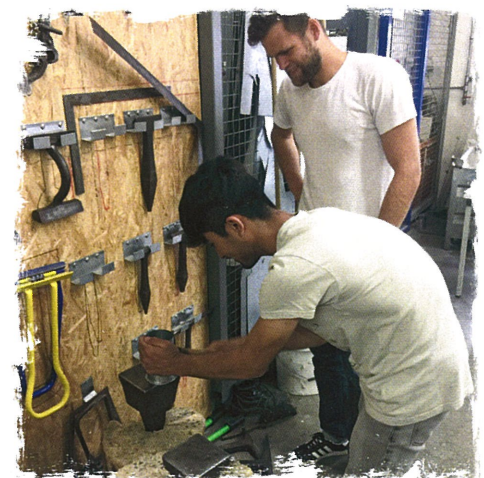
義務教育の着実な修了に備え、青少年の難民は現在、毎日学校に通い、エヤップのチームから特別な援助を受けています。この難民の大部分はオーストリアで初めて読み書きを習うため、義務教育の修了も簡単なことではありません。



エヤップの教育支援と友愛の援助により
再び授業を受けられるようになった
子供たち



さらに、いろいろな職業を体験することができる様々なプロジェクトもあります。例えば「ウムフのための職業実習期間」です。このプロジェクトの目標は、彼らのために職業的な可能性など将来の方向性を探る手助けをすることにあります。というのも、青少年の難民の多くはオーストリアにある職業を知らないからです。あるいは彼らはその職業の実際の仕事をあまり想像できません。そこで、青少年の難民がオーストリアの職業を知ることができるように、エヤップは二つの試験的な実習のプロジェクトに着手しました。このプロジェクトによって彼らは看護分野の職業と手工業の職業を試してみることができたのです。このプロジェクトは大変実り多いものとなりました。



スポーツ： サッカー、陸上競技、テコンドー

言語習得への注力と教育面での監督に加え、エヤップハウス・メードリングは、そこに住んでいる難民のためにスポーツの機会を用意しています。その重点はサッカーとテコンドーにあります。この企画の目標は、スポーツを統合（インテグレーション）のための手段として利用するチャンスを難民に提供することです。授業とスポーツの間にあるこの企画は青少年に良い影響をもたらしています。そしてその影響のおかげで彼ら難民の青少年たちの包括（インクルージョン）と統合が大幅に前進しています。スポーツクラブでトレーニングする喜びと感激、そして誇りは、難民の青少年たちに、オーストリアに仲間として受け入れられた気持ちを引き起こすことに役立っています。彼らはみな故国で戦争と迫害を経験しました。ですが今は、初めて正常で安全な気持ちを持つことができます。そのために必要な生活の基盤と、とりわけ心の支えが、スポーツや学校生活、教育面での支援によって彼らに与えられているのです。



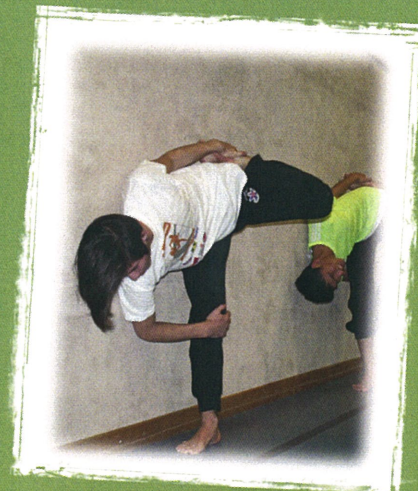
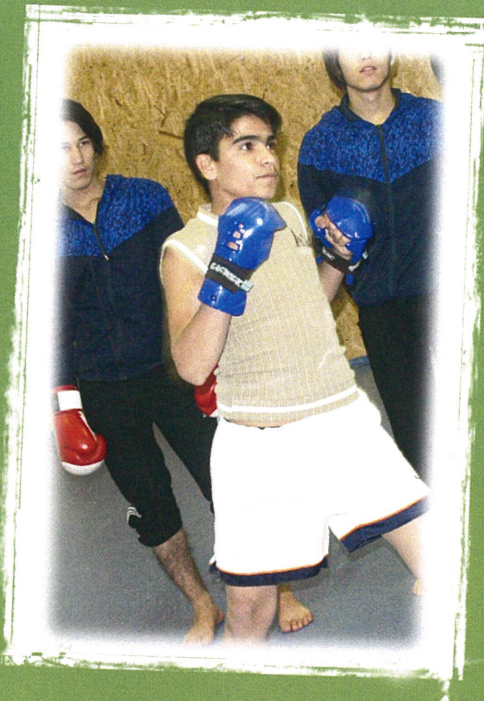


サッカーを通して
チームワークを学び、
友だちとの絆を深める。



真剣に練習に励み、
大会でも大活躍！





テコンドーでは体の柔軟さも大事。たくさんトレーニングして、足もここまで上がるようになった。



毎年開催されるエヤップのマラソン大会。難民の子供たちも、エヤップの寮の学生たちも一緒に汗を流す。



クリスマス

オーストリアではクリスマスは家族や親しい友人と一緒に祝います。クリスマスは、人々がお互いにプレゼントを贈り、喜びを分かち合う、感慨深い静かな祝日なのです。エヤップハウス・メードリングの保護担当者たちは、彼らの被保護者と一緒にクリスマスも祝い、彼らを家族と一緒にわが家にいるような気持ちにさせます。難民の青少年たちはスポーツが大好きなので、彼らは昨年クリスマスプレゼントとしてスポーツウェアやその他のスポーツ道具を買ってもらい、スポーツ協会費を払ってもらいました。もちろんプレゼントをもらっただけでなく、一緒においしい食事を食べ、楽しい夜を過ごしました。



エヤップの担当者や仲間たちと一緒に祝うクリスマス。この日は、難民の子供たちの故郷の食事を用意された。みんなプレゼントをもらって嬉しそう。



夏休み

夏の間、難民の青少年たちには、充実した夏休みのプログラムが用意されました。例えば水泳やサッカー大会、ハイキングなどです。彼らにとって一番楽しかったことは、エヤップハウス・バードグライヒベルクでの二週間の滞在でした。この滞在はエヤップの保護担当者らによって綿密に計画が立てられました。それによってウムフはいくらかリラックスし、休暇を過ごせただけでなく、スポーツを通じて団結心やチームワークを育むことができたのです。難民の青少年たちは、休暇を楽しみ、サッカーや水泳、卓球、ハイキング、サイクリング、そしてアウトドアのプロジェクトのおかげで学校の日常から解放され、すっかり元気を回復できました。

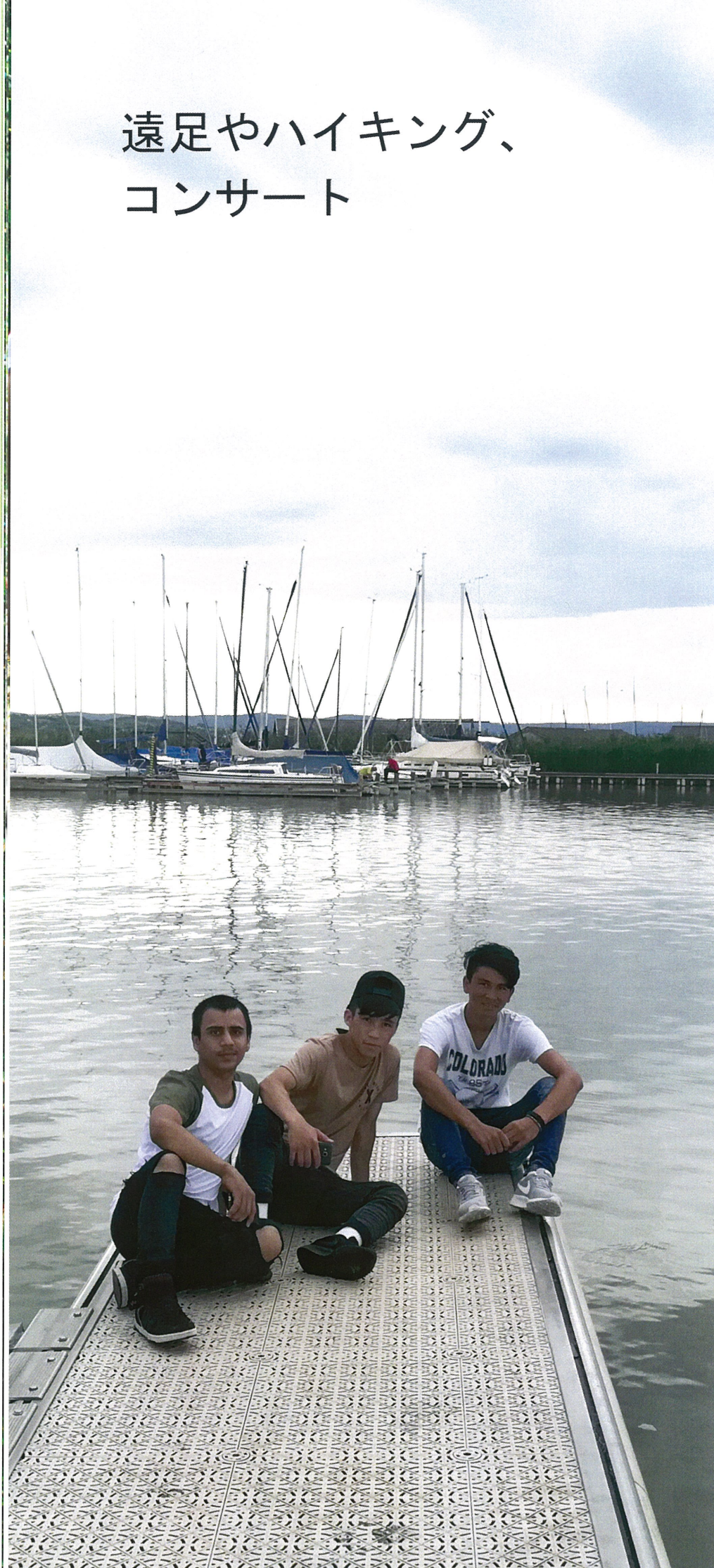
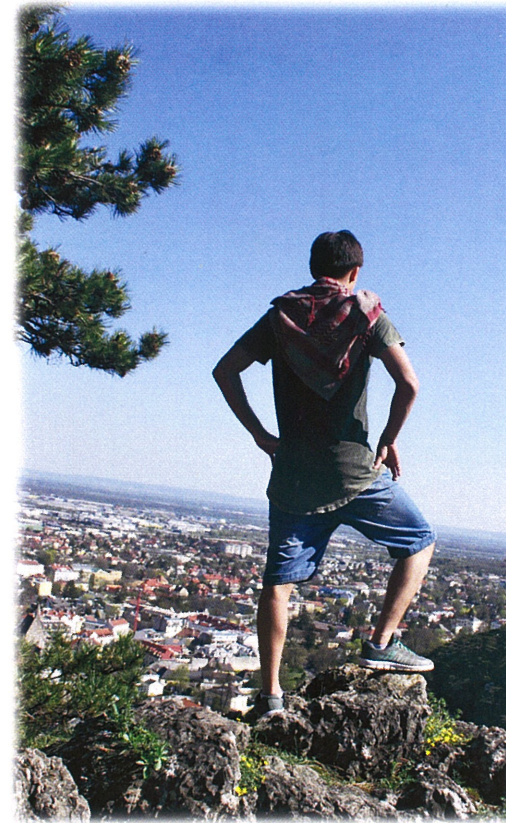






遠足やハイキング、 コンサート

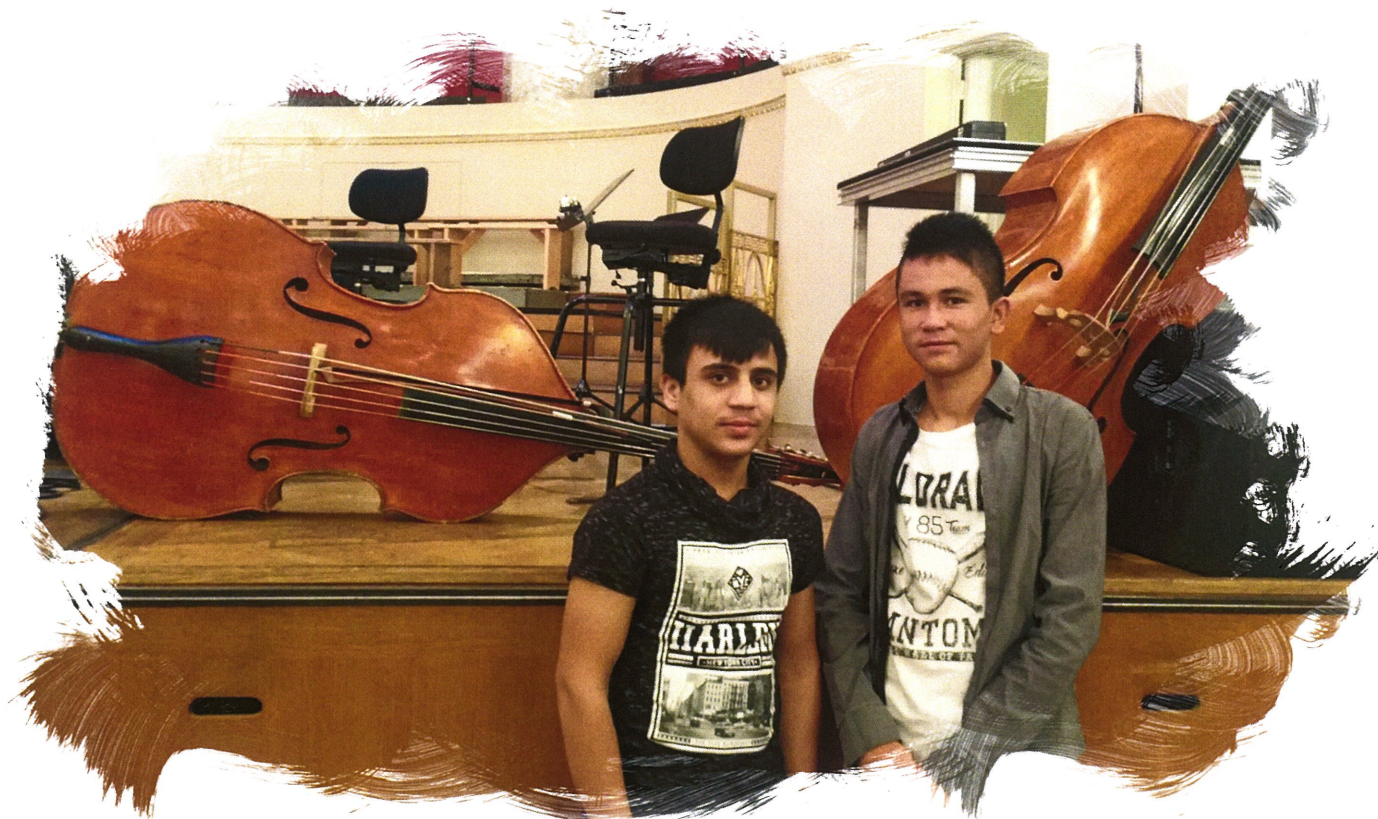
難民の人々には授業と休暇のほかに遠足などいろいろな特別なイベントがあります。それによって彼らは国や人、文化を知るようになります。そして彼らの新しい故郷にゆっくりなじんでいくことができるのです。また、彼らは木登りやハイキングをしたり、コンサートに行ったりもします。





ウムフの子供たちは
体を動かすのが大好き。
頑張り屋さんだ
けど、楽しむことも
忘れない。





コンサート、誕生日、
雪遊び。。

特別な瞬間を大切な仲
間と一緒に



エヤップハウス・グライフェンシュタイン



エヤップハウス・グライフェンシュタインの多文化の寮(インターカルチャーハイム)では約20の国々から来た50人以上の、保護を求める成人が暮らしています。彼らがオーストリア共和国から難民として認知を得るためには長年待たなくてはなりませんが、その間、就労許可をもらうことはほとんど不可能です。そして日々の生活必需品を十分に買うためには、しばしば国からの生活保障では足りないこともあります。彼らが過去に故郷で経験したことや、不確かな未来を無職のまま待たなければならない現状は彼らを苦しめ、彼らの多くは、肉体的な、また心的な問題を抱えてしまいます。エヤップハウス・グライフェンシュタインでは、彼らはお互いに助け合え、家族のように親しい仲間のいる家を見つけ、周辺に住んでいる人々とも一緒に色々な活動をしています。



2006年からはこの寮の周辺が耕され、「多文化(インターカルチャー)自然庭園グライフェンシュタイン」という有機栽培の菜園が作られました。このような菜園プロジェクトはオーストリアで初めてのものです。このプロジェクトでは難民たちが共同で有機栽培の菜園を作り、手入れをしています。彼らは冬の間、有機栽培に関する理論の基礎を学び、色々な物造りをし、天気がいい日には庭園で庭仕事をします。約600㎡の敷地に箱型の苗床が作られ、彼ら熱心な「園芸家」は自分の上げ苗床をもらいました。彼らは好きな植物を栽培でき、もちろんそれらを収穫することもできます。このプロジェクトの目標は主に以下のことにあります。

- 彼らの難民保護申請が承認されるまでの、しばしば長きにわたる待つばかりの日々に有意義な仕事を創り出すこと
- 保護申請が承認された後にも役立つ知識を教えること
- 新鮮な野菜や果物を栽培することによって部分的に自給自足できるようにすること
- とりわけ周辺の住民との社会的な接触を促すこと
- 難民が抱えやすい、心身に関する多くの、そして著しい問題のために菜園を園芸療法として役立てること



グライフェンシュタインの夏祭り

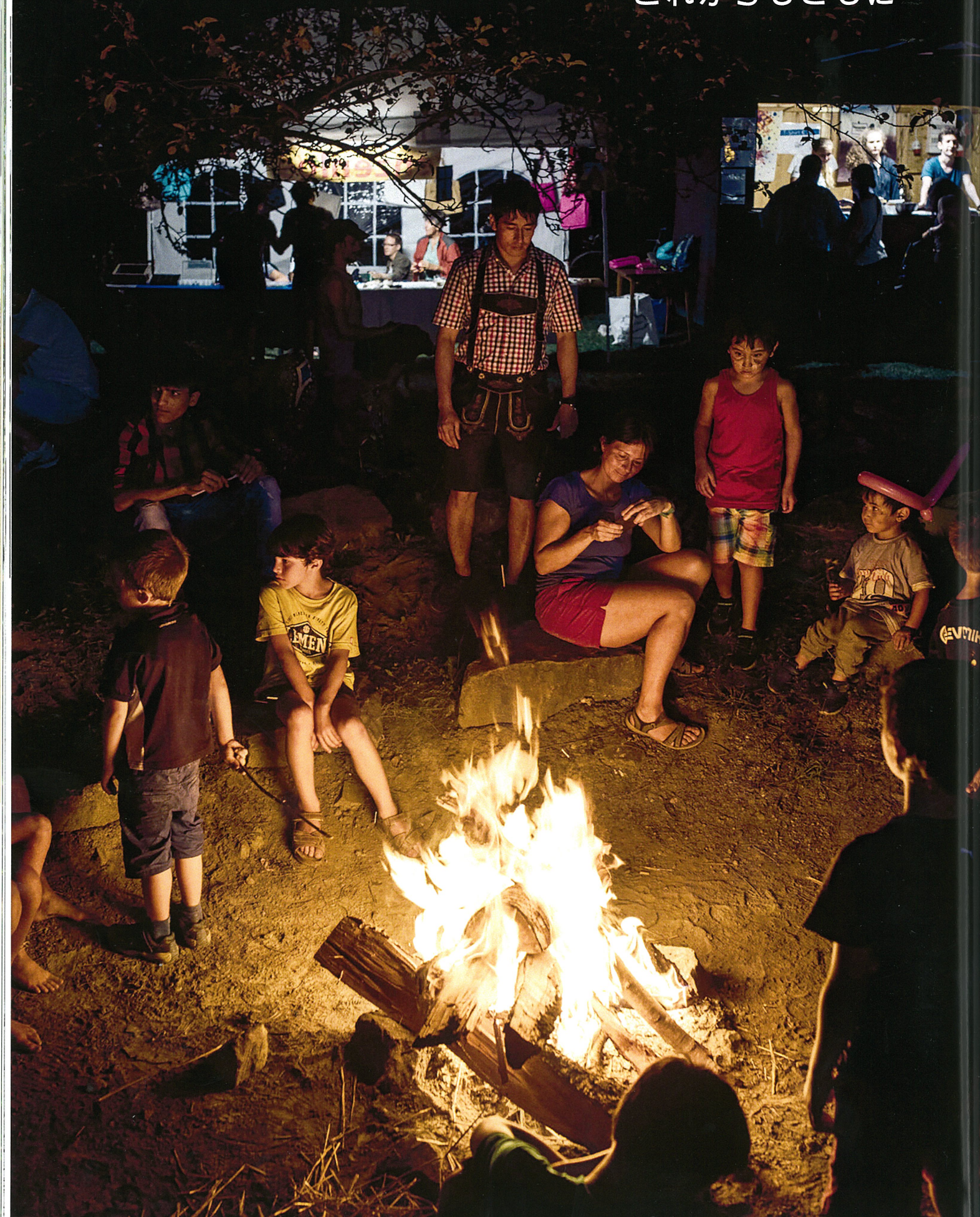


毎年8月には、三日間の間、多文化(インターカルチャー)自然庭園グライフェンシュタインでグライフェンシュタインの夏祭りが催されます。この夏祭りで難民と周辺住民は、お互いに親交を深めることができ、それぞれ異なる文化や国について知ることができます。そこでは皆と一緒にバーベキューをし、食事を楽しみ、コーヒーを淹れるのです。バンドや芸術家が出演し、その腕前のほどを披露します。この夏祭りでは人々の間の壁は取り払われ、みんな仲間になるのです。





友愛とエヤップは、
人類の未来のために、
これからもともに





42-48-8-0-50503478730

